

高齢者施設での新型コロナ ワクチン接種を終えて

特別養護老人ホーム 南 聖 園

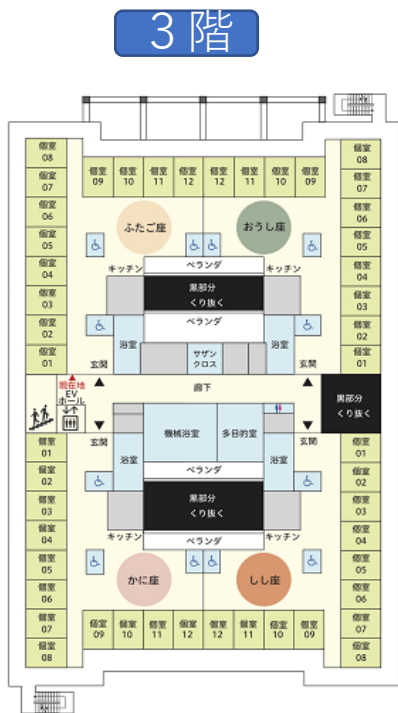
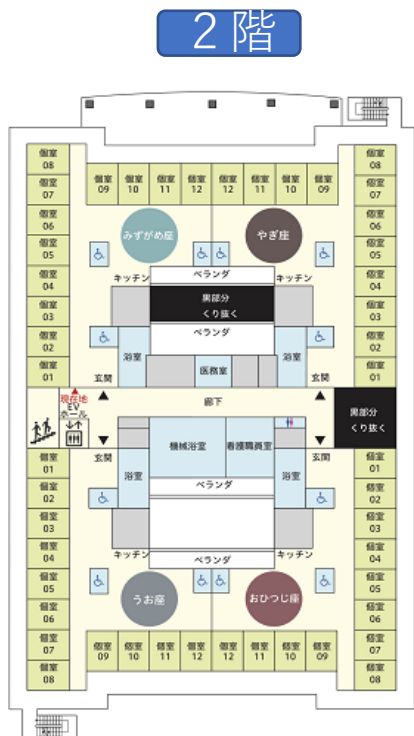
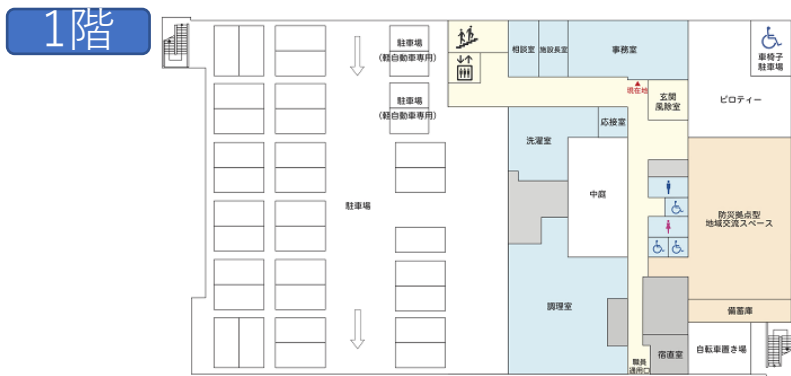
相談員 津久井 豊

(社会福祉士・介護支援専門員・介護福祉士)

施設の概要

秋川駅から徒歩8分となるユニット型個室特養

居室数 個室120室



ワクチン接種者状況

- 利用者120名と職員（職域に関係なく実施）

	利用者	職員
1回目 (令和3年5月31日)	112名	86名
2回目 (令和3年6月21日)	113名	85名

利用者と接種しなかった人は

入院中（4名）

ターミナル期（4名） 家族同意あり

ワクチン接種後の副反応

	利用者	職員
1回目	症状はほとんどなし	過半数以上が接種部位の痛み 1名:発疹と腕に力が入らない
2回目	「当日」90代女性:足元のふらつきと発熱(38℃以上) 「2日目」90代女性:鼻水と強い倦怠感 80代女性と90代女性2名:発熱(38~37.5℃) 発熱に対してはカロナール服用にて翌日改善	ほぼ全員に接種部位の痛み 半数以上が倦怠感 11名:発熱(翌日休み7名) 1名:気分不良と嘔吐 発熱に対してはカロナール服用後翌日の勤務は休みとした

当施設では約12%の職員が副反応により休養が必要になった



接種翌日の勤務調整を前もって実施することを勧める(普段の出勤者より多く人数確保)

副反応に対して職員への周知

1, 副反応について

発熱(37.5℃以上)・倦怠感・頭痛・寒気・筋肉痛・関節痛・接種部の疼痛等が3日以内に出現し、1～3日以内で減退・消失することが多い。

まれに起こる重度な副反応の場合には気管支喘息なら呼吸困難から窒息を引き起こしたり、まれに起こる重度な副反応の場合には気管支喘息なら呼吸困難から窒息を引き起こしたりします。

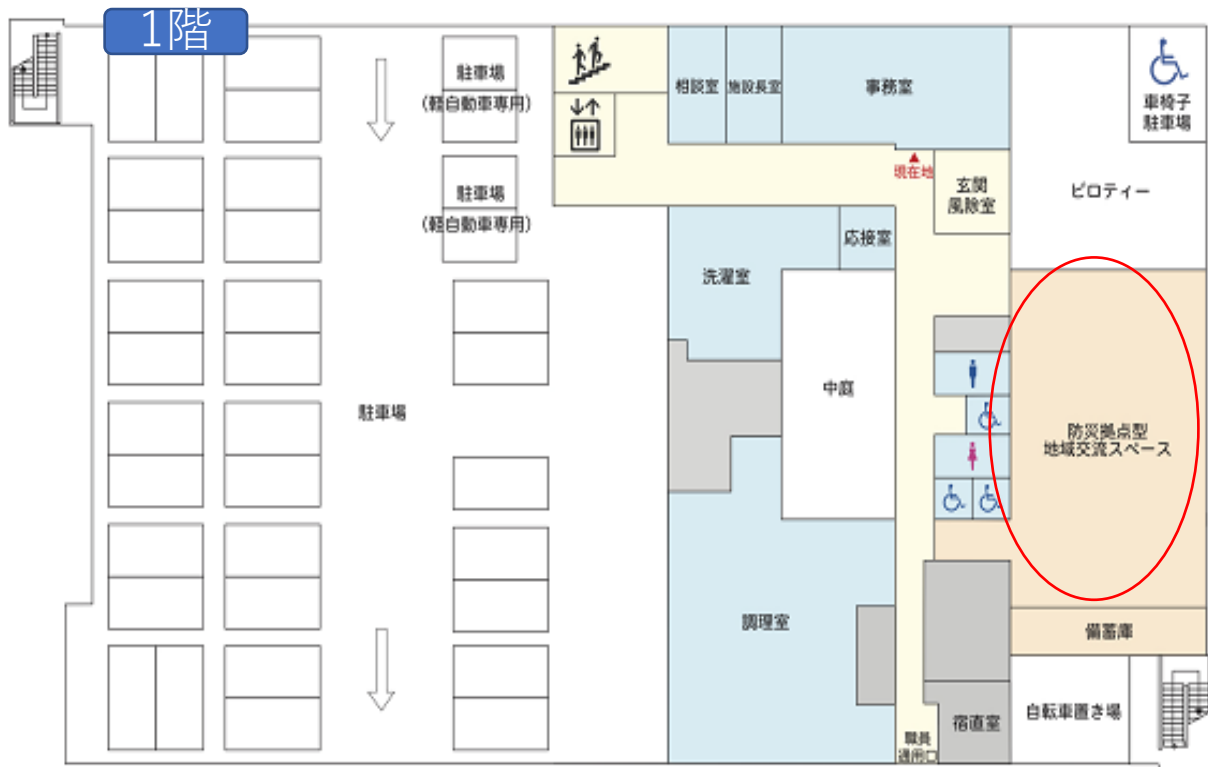
出勤可否について取り決め

- 発熱であれば、解熱後(発熱のピークから37.0℃以下に下がった状態)より勤務可能
- 筋肉痛・倦怠感のみの場合は、症状が持続していても勤務可能
- 発熱等の症状に加えて、咳・咽頭痛・鼻水・痰がらみ・呼吸苦等の気道症状を併発している場合は、副反応以外の影響が強く考えられるため、症状に応じて衛生管理者へ相談



出勤可否は衛生管理者に一元化

ワクチン接種の会場



ワクチン接種に要した人員

- ・外部：嘱託医1名、あきる台病院から医師3名・看護師2名
- ・施設：看護師6名、相談員3名、事務職員1名、介護士(数名)



ワクチンの注射詰め

- あきる台病院の看護師と施設の看護師と共同し、希釈と注射器への充填198名分を実施
- 時間は1回目1時間30分(あきる台病院の看護師に指導を受ける)
2回目1時間
- 量も視力の良い看護師とでダブルチェック(希釈時と充填時)



ワクチン接種の流れ



受付

介護職員が誘導し、
合間に職員も接種を
同時進行で行った

- ①各ユニットごとに12名のグループを作る
- ②地域交流スペースに移動(ほとんどが車いす利用)



入所者接種場所

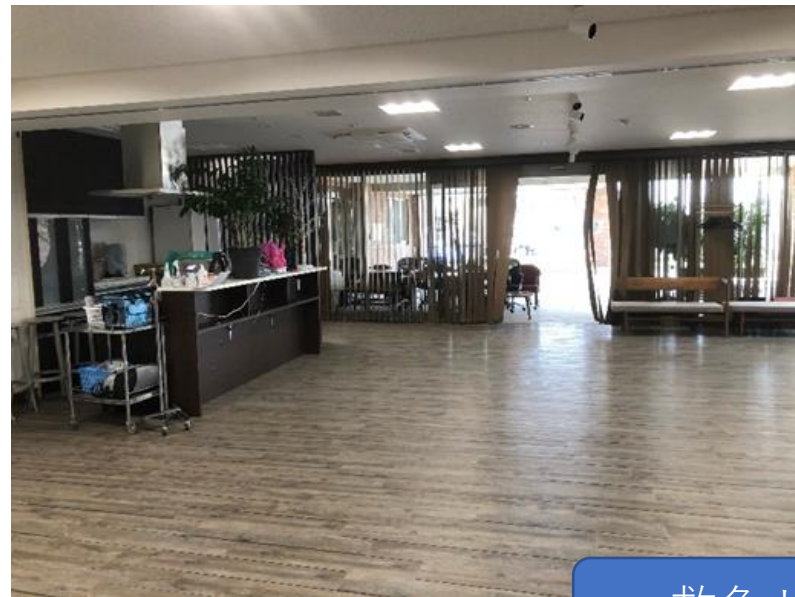


職員接種場所



入所者接種後の待機場所

待機場所に救急セットと担架を用意



救急セット設置

ワクチン集団接種を終えて

工夫をしたこと

- ①待機時間の明瞭化(車いすに付箋にて終了時間を記入)
- ②ワーファリン服用者・腕に保護テープを使用
- ③グループをつくり担当利用者を1つの場所に誘導

認知症の利用者に対して

- ①ワクチンの説明(個々に合わせて実施)
ワクチン接種を行うだけでは不安をあおってしまう
- ②接種後、認知症患者に対し声掛けとテレビモニター設置

ご清聴ありがとうございました。

